

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成19年度病虫害発生予報第3号(6月)について

このことについて、病虫害発生予報第3号を発表したので送付します。

トピックス

キュウリ黄化えそ病やトマト黄化葉巻病等ウイルス病が発生しています。

栽培終了時にはウイルスの媒介虫を撲滅しましょう!

施設ほ場で発生しているミナミキイロアザミウマやタバココナジラミはウイルス病の媒介虫でもあり保毒している可能性があります。

栽培終了時は媒介虫撲滅のチャンスです。媒介虫をハウス外に逃がさないように、薬剤防除やハウスの蒸し込みを行うなど防除対策を徹底して下さい。



キュウリ黄化えそ病発病株



ミナミキイロアザミウマ

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう

向こう1か月の気温は平年より高いでしょう。降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か低く、2週目は平年より高く、3~4週目は平年並か高いでしょう。

要素別確率

要素	(低い) (少ない)	平年並	(高い) (多い)
気温	30	30	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

(福岡管区气象台 19年5月25日発表抜粋)

予報第3号

向こう1ヵ月間における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生時期 (予想)	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	平年比	前年比
水稲	ヒメトビウンカ 縞葉枯病	- -	少 -	少 並	並 並
かんきつ	黒点病 そうか病 ミカンハダニ	- - -	- やや多 並	並 やや多 やや多	少 やや少 並
なし	黒星病	-	多	やや多	やや少
ぶどう	べと病 黒とう病	- -	並 並	並 並	並 やや多
かき	炭そ病 フジコナカイガラムシ	- -	少 やや多	並 やや多	並 やや多
いちじく	アザミウマ類	-	少	並	多
果樹共通	カメムシ類 本所管内 筑後支所管内 行橋支所管内	早 早 早	やや多 少 少	- - -	やや多 少 並
茶	炭そ病 もち病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノキイロアザミウマ	- - - 早 - -	少 少 並 多 多 多	並 並 やや多 多 多 多	やや多 少 多 多 多 並
アスパラガス	アザミウマ類	-	並	やや多	並

* 果樹共通 カメムシ類の発生時期(予想)及び発生量(現況)は前年比

* 本所管内(福岡農林、飯塚農林、朝倉農林)、筑後支所管内(筑後農林)、行橋支所管内(八幡農林、行橋農林)

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（ + ）は発生を助長する要因、（ - ）は発生を抑制する要因、（ ± ）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【普通作物 - 水稲】

1 ヒメトビウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

5月5半旬の片振り20回すくい取り調査の結果は次のとおりである（ - ）。

ヒメトビウンカの生息密度 畦 畔 0.2頭（平年 0.1頭、前年 1.5頭）

休 閑 田 4.6頭（平年 2.6頭、前年 0.4頭）

小麦ほ場 16.4頭（平年 43.1頭、前年 21.2頭）

主な増殖地である小麦ほ場での生息密度が平年の半分以下である。

2 縞葉枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア ヒメトビウンカ越冬世代の成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は4.2%（平年2.4%、前年5.3%）であった（詳細は平成19年度病害虫発生予報第2号、技術情報参照）（ + ）。

イ 5月5半旬調査の結果、ヒメトビウンカの生息密度は平年より少なく、前年並であった（ - ）。

(3) 防除上の注意

ア 常発地域や保毒虫率が高くなっている地域では、縞葉枯病感染防止効果のある育苗箱施用薬剤を選定する。

イ 平成17年度に実施したヒメトビウンカの薬剤感受性検定結果によると、フィプロニルは殺虫効果の発現に時間を要することから縞葉枯病感染防止効果は低いと考えられる。

ウ 育苗箱施用薬剤の使用基準（1箱当たり投下量）を遵守する。

エ ほ場外で育苗箱に農薬を散布する時は、育苗箱からこぼれないように行い、育苗箱の下にビニールシート等を敷き地面への浸透防止に努める。

オ 縞葉枯病の発病株を認めたら抜き取る。

【普通作物・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
	平年比	平年比	前年比
水稲 ツマク 030バ イ	やや少	やや少	並
萎縮病	-	並	並

【果樹】

1 かんきつ黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より少

(2) 予報の根拠

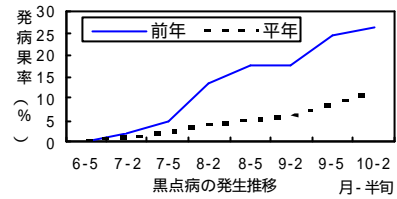
ア 伝染源である枯枝の発生が、前年より少ない(-)。

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア 伝染源となる枯れ枝と剪定枝は除去し、園外に持ち出し処分する。

イ 降雨が続くと多発するので、薬剤防除は積算降水量250mmを散布間隔の目安に防除を実施する。



2 かんきつそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査結果(+)

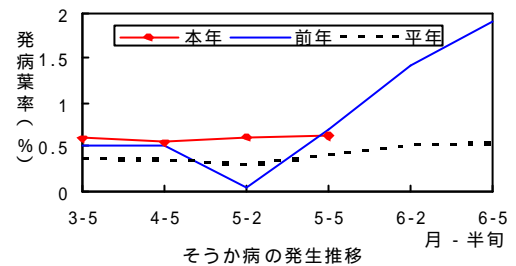
発病葉率 0.6%(平年 0.4%、前年 0.7%)

発生ほ場率 62.5%(平年 31.9%、前年 58.8%)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

発病葉が多いと果実への伝染密度が高まるので、罹病葉を除去し幼果期にも防除を行う。



3 かんきつのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査結果(+)

寄生葉率 10.1%(平年 12.3%、前年 7.6%)

発生ほ場率 68.8%(平年 54.3%、前年 58.8%)

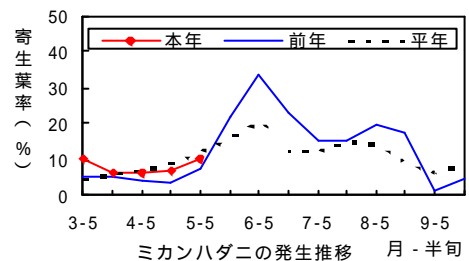
イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア 高度精製マシン油乳剤は、高密度時には十分な効果が得られないので、発生密度が高くなる前に散布する。また、落花期以降にデラン剤を散布した園地は使用しない。

イ 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連用は、薬剤感受性の低下を来す可能性があるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



4 なし黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査結果(+)

発病葉率 1.0%(平年 1.1%、前年 1.2%)

発生ほ場率(発病葉) 40.0%(平年 36.2%、前年 66.7%)

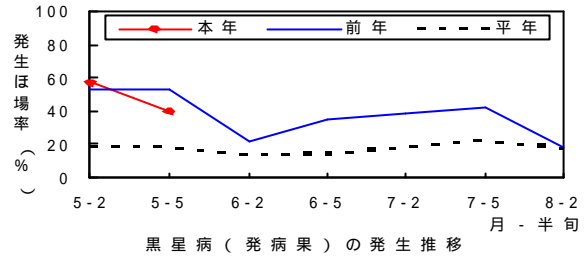
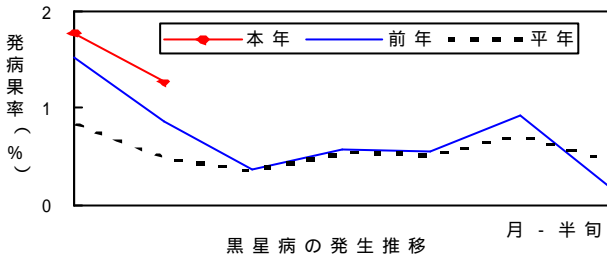
発病果率 1.3%(平年 0.5%、前年 0.9%)

発生ほ場率(発病果) 40.0%(平年 18.9%、前年 53.3%)

- イ 防除不徹底園や中山間地域での発生が多い。
- ウ 向こう1カ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

- ア 発病葉や果実は発生源となるので、見つけ次第取り除き焼却または埋没する。
- イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



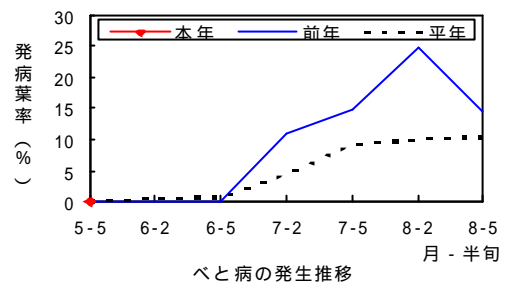
5 ぶどうべと病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

- ア 5月5半月調査結果(±)。
 - 発病葉率 0%(平年 0.03%、前年 0.02%)
 - 発生ほ場率 0%(平年 7.1%、前年 7.1%)
- イ 向こう1カ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(±)。



(3) 防除上の注意

- ア 発病後の防除は、効果が低いため予防散布を徹底する。
- イ 罹病葉及び罹病果は発生源となるので除去し、園外に持ち出し処分する。

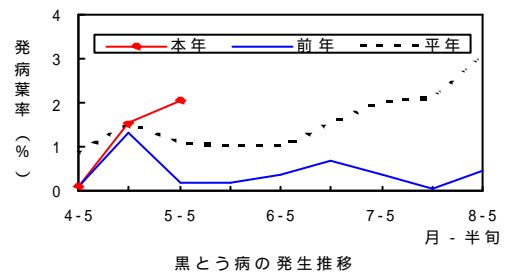
6 ぶどう黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

- ア 5月5半月調査結果(+)。
 - 発病葉率 2.1%(平年 1.1%、前年 0.2%)
 - 発生ほ場率 25.0%(平年 27.0%、前年 14.3%)
- イ 向こう1カ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(±)。



(3) 防除上の注意

罹病葉及び罹病果は発生源となるので除去し、園外に持ち出し処分する。

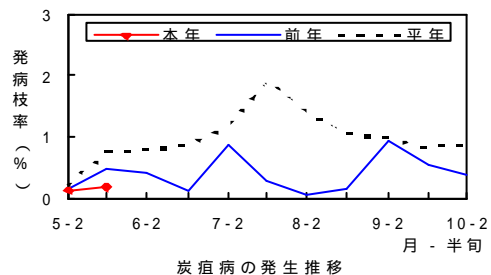
7 かき炭そ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

- ア 5月5半月調査結果(-)。
 - 発病枝率 0.2%(平年 0.8%、前年 0.5%)
 - 発生ほ場率 11.8%(平年 25.4%、前年 29.4%)
- イ 向こう1カ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(±)。



(3) 防除上の注意

- ア 罹病枝及び罹病果は発生源となるので除去し、園外に持ち出し処分する。
- イ 発病枝の多い園では、降雨により感染が拡大するので薬剤散布を徹底する。

8 かきのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査結果(+).

寄生枝率 2.6%(平年 1.9%、前年 1.5%)

発生ほ場率 64.7%(平年 44.3%、前年 52.9%)

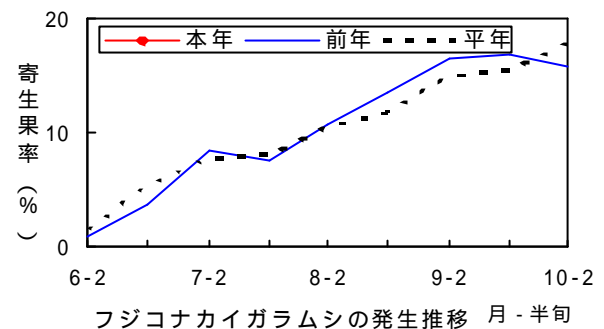
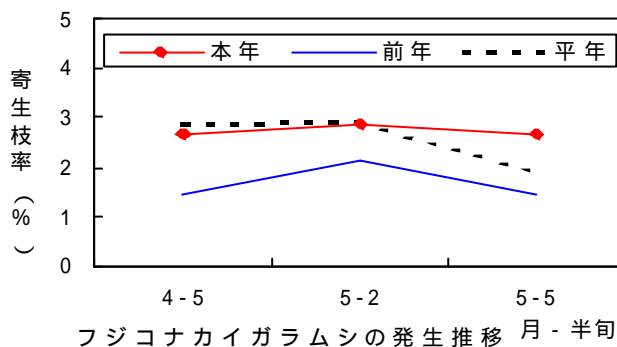
イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(+).

(3) 防除上の注意

ア 第1世代幼虫出現期の防除が最も効果が高いことから、6月10日頃を目安に更に約10日後に防除を行う。

イ 本虫は、薬剤がかかり難い場所に多く寄生するので、散布むらのないよう丁寧に防除する。

ウ 薬剤散布にあたっては、なるべく天敵類に影響の少ない薬剤を選択する。



9 いちじくのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬までの誘引剤の誘殺虫数は次のとおりである(-).

(調査地点：行橋市西泉)

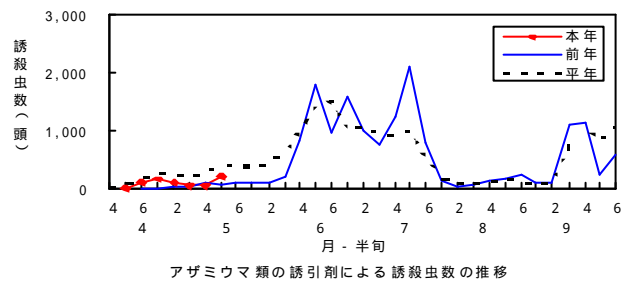
655頭(平年 1,597頭、前年 203頭)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(+).

(3) 防除上の注意

ア 園地周辺の6～8月に開花する植物でも増殖するので、畦畔等の除草に努める。

イ 今後果樹園への飛来が多くなるので、定期的な防除を行う。



10 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生時期：前年より早

発生量：本所管内 前年よりやや多

筑後支所管内 前年より少

行橋支所管内 前年並

(2) 予報の根拠

ア 1m²当たりの越冬量は本所管内で平均1.5頭(前年 1.8頭)、筑後支所管内で平均0.4頭(前年 2.6頭)、行橋支所管内で平均0.8頭(前年 0.3頭)と地域により異なる。(越冬量の詳細は、平成19年2月20日付け「速報第7号」参照)

イ 5月5半旬までの予察灯の誘殺虫数は次のとおりである。

(調査地点：本所管内筑紫野市)(+)

チャバネアオカメムシ 268頭(前年 248頭)

ツヤアオカメムシ 58頭(前年 32頭)

(調査地点：筑後支所管内八女郡黒木町)(-)

チャバネアオカメムシ 118頭(前年 753頭)

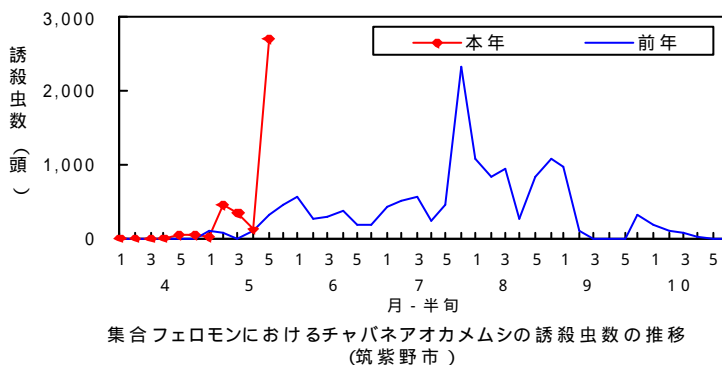
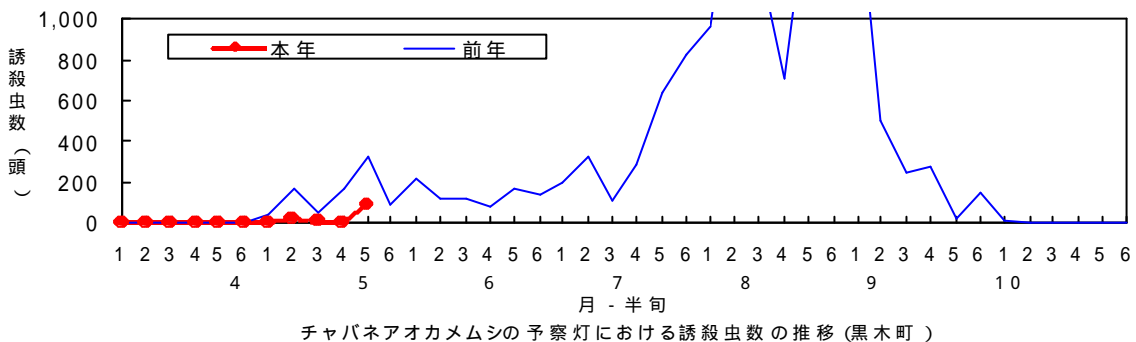
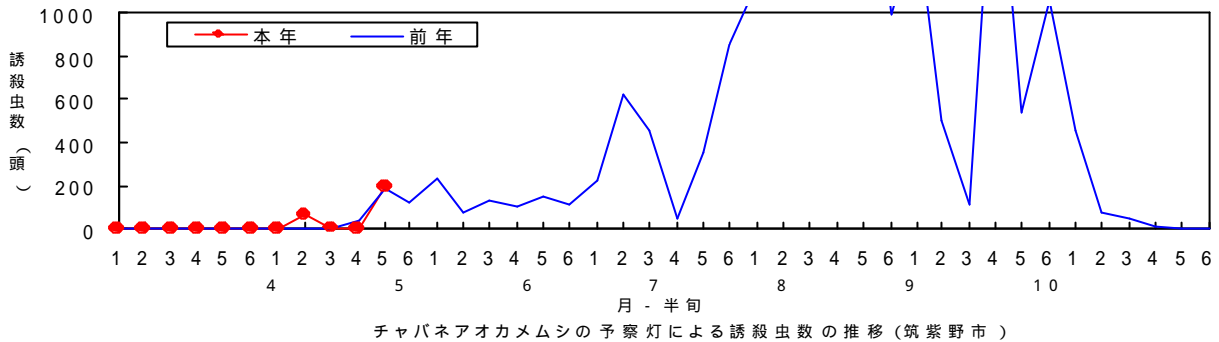
ツヤアオカメムシ 4頭(前年 28頭)

ウ 5月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである(+)

(調査地点：筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ 4,116頭(前年 545頭)

ツヤアオカメムシ 232頭(前年 24頭)



エ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア 越冬量の多かった地域では、今後果樹園への飛来が増えると予想されるので、園内の発生状況の把握に努め、飛来を認めたら直ちに防除を行う。

イ 本年は主な餌植物であるヒノキ球果の結実量が少ないため、果樹園への飛来は前年に比べ早くなると予想される。

【果樹・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	少	少	並	
なし アブラムシ類	少	少	少	・ハダニ類の防除は、薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
なし ハダニ類	並	並	並	
かき うどんこ病	並	並	やや多	
かき ハマキムシ類		並	並	

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査結果(±)

発病葉数 0.0葉(平年 0.5葉、前年 0葉)

発生ほ場率 4.0%(前年 0%)

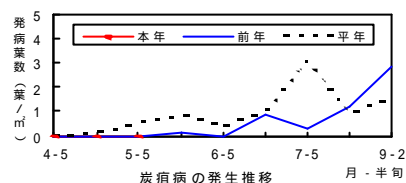
イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア 一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに防除を行う。

イ 雨滴により胞子が飛散伝搬するので、降雨前の防除が効果が高い。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 もち病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査結果(±)

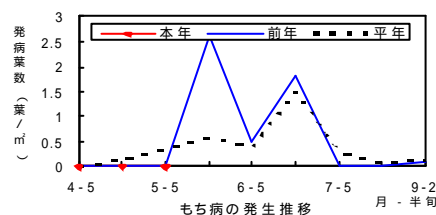
発病葉数 0葉(平年 0.4葉、前年 0葉)

発生ほ場率 0%(前年 0%)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに防除を行う。



3 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査結果(+)

寄生葉率 6.7%(平年 6.6%、前年 2.8%)

50葉当たり虫数7.1頭(平年 22.0頭、前年 6.9頭)

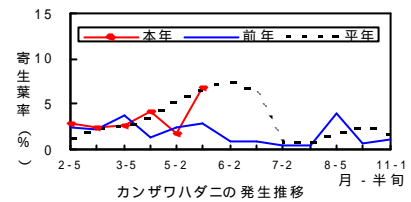
発生ほ場率 72.0%(前年 41.7%)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア 発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



4 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生時期：平年・前年より早

発生量：平年・前年より多

(2) 予報の根拠

ア 越冬世代成虫の発蛾最盛期は、筑後市・八女市ともに4月3半旬頃で、平年より早い。

イ 5月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである(+)

調査地点：筑後市289頭(平年 396頭、前年 293頭)

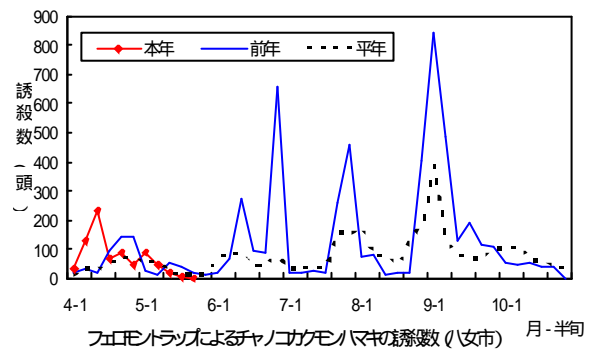
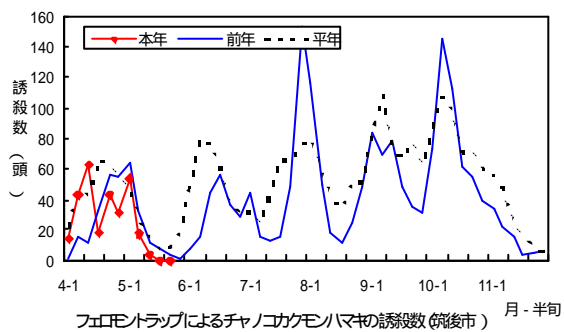
八女市741頭(平年 421頭、前年 587頭)

ウ 5月5半旬調査結果(+)

被害葉数 0.13葉(平年 0.03葉、前年 0.18葉)

発生ほ場率 20.0%(前年 4.2%)

エ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(+)



(3) 防除上の注意

ア 第1世代成虫の発蛾最盛期は、6月中旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、成虫が最も多いときから7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

5 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査結果(+)

たたき落とし虫数0.8頭(平年 0.2頭、前年 0.1頭)

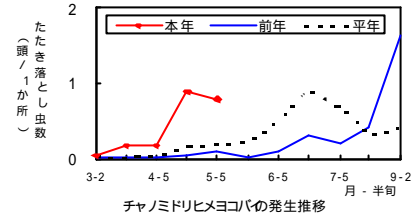
発生ほ場率 52.0%(前年 20.8%)

イ 向こう1カ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



6 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査結果(+)

たたき落とし虫数15.4頭(平年 5.0頭、前年 14.7頭)

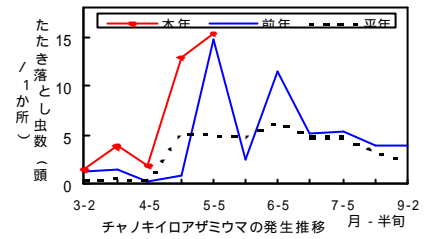
発生ほ場率 92.0%(前年 75.0%)

イ 向こう1カ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



【野菜】

1 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査結果は、次のとおりである(±)。

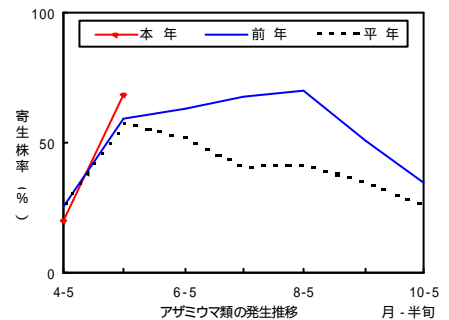
寄生株率 68.8%(平年 57.1%、前年 58.9%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア ほ場内や周辺の除草を徹底する。

イ 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。



【野菜・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
ネギ ヨウセンヨトウ	並	並	並	薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。
アスパラガス 斑点病	少	やや少	並	ほ場内の通風をよくする。 初期防除を徹底する。
ハダニ類	並	並	並	
アブラムシ類	並	並	やや多	
鱗翅目	並	並	並	

農薬の適正使用、飛散防止の徹底を！

全ての農薬の残留基準が作物毎に設定され基準値を超えた食品（農産物）の販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう、これまで以上に注意を払う必要があります。

1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数の使用基準を遵守する。

動力噴霧器、薬液タンクなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 生産履歴の記帳

農薬使用の際は、作物、ほ場、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を記帳する。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka>
電子メール kfok0301@sp.jpnp.ne.jp